世界遺産 毛越寺（もうつうじ）

特別史跡・特別名勝

World Heritage Motsuji Temple

■歳時記

・二十日夜祭	1月20日
・春の藤原まつり	5月1日～5日
・あやめまつり	6月20日～7月10日
・浄土庭園法灯会	8月16日
・萩まつり	9月15日～30日
・秋の藤原まつり	11月1日～3日

■宝物館

毛越寺に伝わる、平安期の仏像・書籍・工芸品、発掘遺品、調査資料、延年の舞用具等、有形文化財多数陳列。

■交通のご案内

毛越寺事務所

岩手県平泉町字大沢

TEL.0191-46-2331

FAX.0191-46-4184

毛越寺ホームページ

https://www.motsuji.or.jp

毛越寺の由来

白鹿伝説

寺伝によると嘉祥三年（八五〇）慈覚大師が東北巡遊のおり、この地にさしかかると、一面霧に覆われ、一歩も前に進めなくなりました。ふと足元を見ると、地面に点々と白鹿の毛が落ちておりました。大師は不思議に思いその毛をたどると、前方に白鹿がうずくまっておりました。大師が近づくと、白鹿は姿をかき消し、やがてどこからともなく、一人の白髪の老人が現われ、この地に堂宇を建立して霊場にせよと告げました。

大師は、この老人こそ薬師如来の化身と感じ、一宇の堂を建立し、嘉祥寺と号しました。これが毛越寺の起こりとされます。

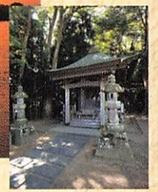
寺名の読み

毛越寺はモウツウジと読みます。通常、越という字をツウとは読みません。越は慣用音でオツと読みます。従ってモウオツジがモウツジになり、更にモウツウジに変化したものです。

法楽

常行堂二十日夜祭（はつかやさい）

毎年正月二十日に世の中の平安と人々の幸せを祈願する祭礼で、古式の法要のほか献膳上り行列が執り行われ、最後に「延年の舞」が奉納される。



夏草や兵どもが夢の跡

高館（たかだち）

判官館ともいい、北上川や束稲山などを一望できる場所である。源義経公はここで自害したと伝えられている。天和三年（一六八三）義経堂が建てられ、義経公の尊像がまつられている。

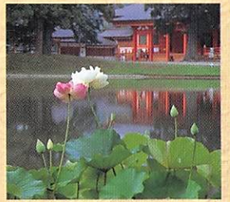
高館義経堂は、毛越寺から徒歩約二〇分、車で五分の位置にあります。裏面の略図を参照ください。

延年の舞

法会の後に神仏に奉納される歌舞を「延年」といい、毛越寺の「延年の舞」は中世より伝承されてきたものである。正月の祭礼には、田楽、路舞、祝詞、若女禰宜、老女、児舞、勅使有吉が順次奉納される。他に能「留鳥」、舞楽「迦陵頻」などが伝えられている。

曲水の宴

庭園の遣水に盃を浮かべ、流れに合わせて和歌を詠む。平安時代の遊びを再現したものである。

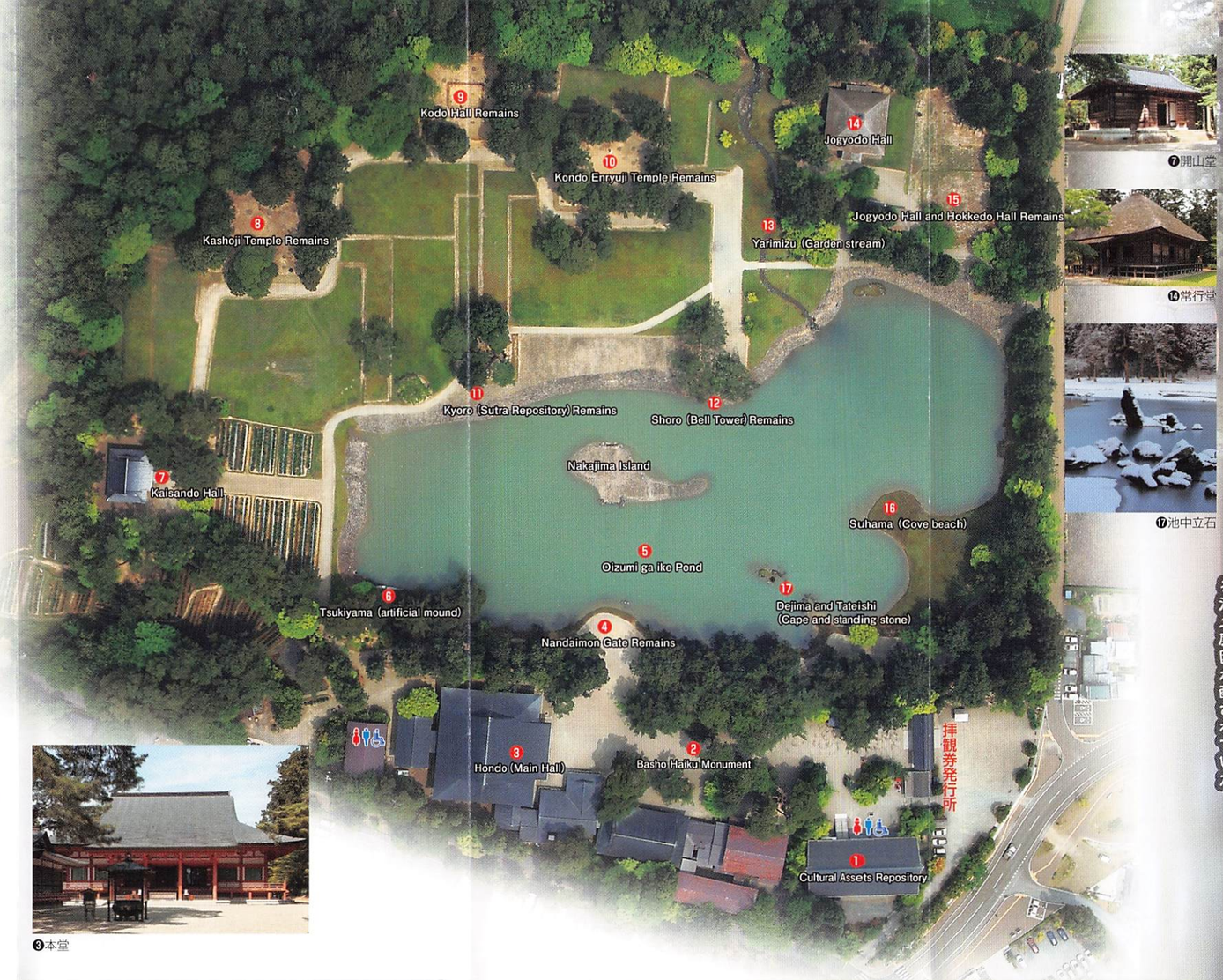


花の寺

境内には梅、桜、花菖蒲、蓮、萩、モミジなど様々な草木が植えられていて、四季折々にその風情を楽しむことができる。

臨池伽藍跡と浄土庭園

広大な境内には、かつて金堂円隆寺をはじめ嘉祥寺・講堂・常行堂・経楼・南大門などの堂舎が並び、その前庭に大泉が池を中心とする浄土庭園が配されていた。



⑦開山堂
⑭常行堂
⑰池中立石

③本堂

①宝物館
毛越寺一山に伝わる平安期の仏像、書籍、工芸品、発掘遺品、調査資料、延年の舞用具などを陳列している。

②芭蕉夏草の句碑
元禄二年（一六八九）旧暦五月十三日、高館を訪れた松尾芭蕉は、悲運の武将源義経公主従をしのび次の句を詠んだ。
「夏草や　兵どもが　夢の跡」

③本堂
毛越寺一山の本坊。本尊薬師如来（平安時代作）脇士日光・月光両菩薩を安置。

④南大門（なんだいもん）跡
毛越寺の正門であり、両脇に仁王像を安置し、正面に「金堂円隆寺」の勅額が掲げられていた。また門の左石には築地塀が廻らされていた。礎石十二個が完存する。

⑤大泉が池（おおいずみがいけ）
塔山を背景に仏堂の前に造築された庭園で、池には南大門から中島、さらに円隆寺へと続く二つの橋が架けられていた。池は海を表現していて、汀には洲浜、荒磯、築山など海浜の景趣が配されている。

⑥築山（つきやま）
洲浜・出島と対応の位置にあり、海岸に迫る岩山を表現している。

⑦開山堂（かいさんどう）
毛越寺開山慈覚大師をおまつりするお堂で他に両界大日如来像、藤原三代の画像を安置。

⑧嘉祥寺（かしょうじ）跡
二代基衡公が工を始め三代秀衡公が完成させた御堂で、本尊は薬師如来であった。基壇は亀腹式の土壇である。嘉勝寺ともいう。

⑨講堂（こうどう）跡
仏法を説き仏法を聞く堂舎。内陣の仏壇の下部は厚い粘土層で造られている。

⑩金堂円隆寺（こんどう・えんりゅうじ）跡
基衡が万宝を尽して建立した勅願寺で、本尊は雲慶作の丈六の薬師如来であった。毛越寺の中心的伽藍で、東西に廊が出て南に折れ、その先端には鐘楼、経楼があった。基壇は石造り壇上積である。

⑪経楼（きょうろう）跡
金堂西廊の南端にある経文を収める建物で、鐘楼と対称の位置にある。鼓楼との説もある。

⑫鐘楼（しょうろう）跡
金堂東廊の南端に連なる建物で、雨落溝が土壇をめぐり、その水は池に注ぐように造られている。

⑬遣水（やりみず）
山水を池に取り入れるための水路であるが、谷川を流れ下り更に蛇行しながらゆったりと平野を流れる川の姿を表現している。水底には主石を敷きつめ、流れに水切り、水越し、横石などの石を配していて、「作庭記」に記されているこれらの技法を目の当たりに出来る貴重な遺構である。

⑭常行堂（じょうぎょうどう）
現常行堂は享保十七年（一七三二）に再建された建物で、本尊は宝冠阿弥陀如来、脇士は四菩薩、奥殿に摩多羅神をまつる。祭礼は正月二十日で、古式の法要の後「延年の舞」が神仏に奉納される。

⑮常行堂・法華堂（ほっけどう）跡
常行三昧・法華三昧という天台宗の修行の道場である。平安時代創建の建物は、慶長二年（一五九七）に焼失した。

⑯洲浜（すはま）
海岸の砂州を表現しており、やわらかい曲線で入江を形作っている。荒々しい出島・池中立石と対照させた景趣である。

⑰出島と池中立石（ちちゅうたていし）
荒磯の風情を表現しており、飛島には約二・五メートルの立石が据えられている。池中立石は、毛越寺庭園を象徴する景趣である。

世界文化遺産
（特別史跡・特別名勝）

平地七町歩、塔山十五町歩合わせて二十二町歩全てが国の特別史跡・特別名勝の二重指定地で、平成二十三年（二〇一一）「平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」として世界文化遺産に登録された。創建時の伽藍は焼失したが、当時の堂宇・廻廊の基壇・礎石、土塁などが遺されていて、平安の伽藍様式を知る上で貴重な遺構として保存されている。また大泉が池を中心とする浄土庭園は、日本最古の作庭書「作庭記」の思想や技法を伝えている池庭で、背景の塔山とともに自然を象徴する景観をもって仏堂を荘厳し浄らかな仏の世界を作り出している。